

ワイス WAICE NOW

Wadayama Association of
International Cultural Exchange

わだやま国際文化交流協会

事務局 朝来市市民文化部和田山地域振興課
朝来市和田山町東谷213-1
TEL 079-672-6137
FAX 079-672-1334

第26次 内モンゴル日本語研修生のみなさん 熱烈歓迎!!

フフホト 呼和浩特民族学院 マフシャン 馬福山教授・包薩茹拉さん・趙欣さん・王濟さん・石帥さん

会長 垣尾幸博

いよいよ寒さ厳しい季節を迎えました。会員の皆様にはますますご健勝のことと存じます。

本年度も、10月17日から11月16日の1か月間にわたり日本語研修生受入事業を実施し、中国内モンゴル自治区の呼和浩特民族学院日本語学科から馬福山教授、そして包薩茹拉さん、趙欣さん、王濟さん、石帥さんの4名の大学生を受け入れました。

総勢5名の招へいはこれまでで一番多く、学校への移動手段など課題もありましたが、スムーズにプログラムを実施することができました。

研修生の皆さんは、和田山中学校をはじめ、市内の小・中・高等学校、立命館大学・立命館孔子学院（京都市）、兵庫県立大学（神戸市）、そして兵庫県国際交流協会の訪問等を通して、日本語のスキルアップに努めるとともに、京都視察や竹田の観音寺様での座禅体験などで日本の伝統文化にふれていただきました。各学校では、内モンゴルでの生活や文化などを紹介し、歌や馬頭琴の演奏を通じて交流を深めました。大学を訪問した折には、中国からの留学生と意見交換をしたり、日本語の授業に参加するなど、呼和浩特民族学院と日本の大学のキャンパスの違いを肌で感じていたようです。



京都視察は金閣寺と三十三間堂へ
写真左から：包薩茹拉さん、趙欣さん、馬福山教授、石帥さん、王濟さん



朝来市到着翌日には多次勝昭市長を表敬訪問

協会の山田理事には、日本語学習の特別講座を受け持っていただき、日本語検定1級取得や日本への留学を目指している学生、大学院進学を目指している学生にとって素晴らしい機会となりました。最終日には、糸井小学校で1か月間の活動について報告会を開催しました。交流協会の役員や先生方を前に、研修生は堂々とした日本語で研修の成果を語ってくれました。

また、市内の事業所訪問では、(株)佳長様、(福)

神戸聖隷福祉事業団様にご協力いただいたほか、宿泊については、神戸聖隷福祉事業団様の職員寮を拠点に、週末等には6家庭でホームステイを受け入れていただきました。厚くお礼申し上げます。

今年も多くの関係者の皆様にご協力いただく中で、素晴らしい成果をあげることができ、今後の交流の広がりに繋がることを確信しています。

平成29年度は、内モンゴルへの訪問事業が32回目、研修生等の受入事業が26回目を数え、そして協会設立30年目を迎えております。次年度には、30年間にわたる交流の記録をまとめたいと考えております。この取組が、国際感覚を持つ人材の育成、国際化に向けた地域づくりに大きく寄与することを願っております。今後とも、ご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

研 修 日 程

10月17日(火)	関空より入国、朝来市へ
10月18日(水)	市長表敬訪問
10月19日(木)	和田山中学校、やぶ日本語教室
10月20日(金)	和田山中学校
10月23日(月)	梁瀬中学校
10月24日(火)	立命館大学・立命館孔子学院訪問、京都視察
10月25日(水)	日本語特別講義
10月26日(木)	糸井小学校、やぶ日本語教室
10月27日(金)	竹田小学校、観音寺
10月28日(土)	和田山中学校創立50周年記念式典
10月30日(月)	梁瀬小学校、(福)神戸聖隷福祉事業団施設見学
10月31日(火)	朝来中学校、(福)神戸聖隷福祉事業団施設見学
11月 1日(水)	日本語特別講義
11月 2日(木)	大蔵小学校、和田山口・タリークラブ訪問
11月 3日(金)	和田山文化祭
11月 4日(土)	交流会
11月 6日(月)	和田山高校、(株)佳長見学
11月 7日(火)	日本語特別講義
11月 8日(水)	兵庫県国際交流協会、兵庫県立大学訪問
11月 9日(木)	やぶ日本語教室
11月11日(土)	少年少女オーケストラ定期演奏会
11月13日(月)	研修報告会
11月16日(木)	関空より出国、中国へ



兵庫県立大学では、留学生たちと一緒にビジネス日本語の授業を受講。アニメや空手、柔道、弓道のサークルも見学し、日本の大学生活にふれました。



交流会には、2年前の第24次研修生で、現在は日本の大学や日本語学校で学んでいる張林(チョウリン)さんと其木格(チリムグ)さんも招待。久々の再会と合わせ、日本への留学について情報交換もでき、有意義なひとときとなりました。

日本語研修を終えて

◆ 馬福山（マフシャン） 呼和浩特民族学院 外語系 日本語学科教授

和田山町というところを初めて聞いたのは、1992年の8月のことです。その時、同じ町で高校の日本語の教師を務めていた友人の白布和（バイブホ）さんから聞いたのです。白さんは和田山に行く前の9月下旬ごろ私を呼び、11月ごろ日本へ渡り、和田山町で3か月間研修することを告げました。白さんと私は同じ町の近所に住み、同じ年に師範学校を卒業して高校の日本語の教師になったのです。白さんの日本研修の話聞いた途端、うらやましくてたまりませんでした。日本語の教師を務めながら、日本留学を狙っていた自分にとって、白さんのようにいつか日本、和田山へ行くことができたらと憧れるようになりました。

1993年の秋、田舎から呼和浩特的日本語学校の教師に招かれ、烏日娜（ウリナ）、涛力（トウリ）と同じ学校で2年半ぐらいの教師仲間になりました。授業の合間に、和田山で研修したばかりの二人の話をよく聞きました。和田山でのホームステイ、田植え、見学旅行などの見聞、美味しい日本料理、きれいな風景、優しい人々の話を聞き、もっと憧れる町になりました。

1992年から25年後の2017年、ようやく憧れの和田山町で研修ができました。長い夢が叶いました。本当に嬉しいです。本当にありがたいです。

1か月間で7校の小・中学校と交流し、学校給食、体育館での運動などをともにして、和田山の生徒たちの生活、学習の様子を肌で感じることができました。授業の見学で、日本の生徒の学習状況が分かりました。すべての授業時間で生徒の積極性を促し、一人ひとりの発表を大切にす授業状況、教育の理念を体得しました。また、生徒たちに内モンゴル独特の民族文化、伝統文化、地域文化などを紹介しました。研修生に内モンゴルのことを紹介させることで、日本語で発表する機会を与え、日本語の表現力の上達を促したと思います。研修生持参のビデオを通じて、今日の内モンゴルの発展ぶりを見せ、日本人の内モンゴルについての古くからのイメージをチェンジし、新しい内モンゴルが印象付けられたと思います。

今回の研修で、日本語能力のアップも一つの大きな目標でした。日本語特別講義とやぶ日本語教室を通じて、研修生たちの日本語がレベルアップしたばかりでなく、日本についての理解も深くなりました。日本語で研修報告書も立派に作成できました。

1か月の研修は早くてアツと言う間です。この報告でまとめることができなかつたこともたくさんあると思います。でも、57才の研修生として、自分は学生たちに負けない気持ちでがんばってきたことを考えると嬉しいです。最後になりましたが、和田山の皆さまにもう一度感謝の意を表します。

◆ 包萨茹拉（ハウサルラ） 呼和浩特民族学院 外語系 日本語学科4年生

私は、日本語学科の学生として、日本についていろいろな勉強をしました。ずっと日本という国に興味を持っています。「百聞は一見にしかず」と言います。やっと日本に行くチャンスが来ました。

1か月の間に、小学校、中学校、高校、大学でお世話になりました。いろいろな授業を参観させていただき、それぞれの学校の特色が印象に残りました。学校の先生と生徒は、みんな同じ給食を食べています。先



モンゴルの民族楽器「馬頭琴」の演奏は大好評！



児童に内モンゴルの自然や文化などを日本語で紹介

生と生徒は友達みたいです。先生たちは、知識だけではなくいろいろな礼儀を教えています。生徒たちの個性を重視し、体が不自由な生徒や心の弱い生徒に対する教育も重視されています。また、先生たちの先進の意識、高い責任感、やさしい態度、生徒たちの一生懸命勉強する姿、時間を守る精神は、日本人の優秀な伝統だと思えます。授業中、子供たちと一緒に日本伝統のゲームで遊んだり、私たちは簡単な中国語とモンゴル語を教えてあげたりしました。楽しかったです。

私たちは、真生園、恵生園、平生園、和生園、わらしべ、さくらの苑などの福祉施設も見学しました。最も感動したのは、人と人之间には差別がないことです。お年寄りと障害者は自分のできる限りの労働をしています。体を鍛えたり、給料をもらったり、人生の価値を実現しています。心から尊敬したいと思えます。

毎週の日本語特別講義は山田先生が担当されました。日本についていろいろ教えてくださいました。日本人の特質、教育制度、日本の衣食住、日本文化、敬語の使用についてなど。収穫がいっぱいありました。

ホームステイという言葉、私はこの言葉を日本に来て知りました。初めて聞いた時、いろいろ心配と不安でいっぱいでした。でも、私が行った家庭のお父さんお母さんは本当に優しく、笑顔があふれていました。わざわざ私のために部屋でいろいろな準備をして、いい環境を整えてくださいました。とても親切な言葉で、いろいろと生活のこと、生活用品の使い方を教えてくださいました。おいしい料理も食べました。温泉に行ったり、百円スーパーに行ったり、家族の一員のように一日を過ごすことができました。

たった1か月の日本での生活でしたが、とても幸せに感じました。日本の文化を理解し、日本語会話能力も向上しました。帰ったら、ここで学んだことや楽しかったことなどを友達や家族に教えてあげます。将来、機会があれば、また日本に行きたいと思えます。本当にありがとうございました。日本と内モンゴルの友好がいつまでも続くことをお祈りします。

◆ 赵欣（チョウキン） 呼和浩特民族学院 外語系 日本語学科4年生

初めて日本の土地を踏んだ私たちは、山々に囲まれた和田山町の美しい自然に心を引かれました。和田山に入って、一番驚いたのは、四方に広がる山々です。とにかく山いっぱいの緑がとても美しいです。

日本での研修の1か月はとても楽しかったです。毎日、日本語を話したり、書いたりしました。日本語の特別講義で、山田先生はたくさん教えてくださいました。日本の文化、日本人の衣食住と生活習慣が少し分かり、その上、日本の教育制度もだいたい分かりました。勉強になりました。やぶ日本語教室では、外国出身の人たちと交流時にたくさん話をしました。この上ない日本語会話の練習になりました。

この間、私たちは一緒に京都に行きました。金閣寺と三十三間堂を見学しました。立派な建物です。小さいころからテレビで日本の着物を見たことがあります。私は「日本に行ったら着物を着る機会があるかな」と期待しました。京都に行った時、清水寺の町には着物を着た人がたくさんいま



着物も体験でき大喜び

した。本当にうらやましかったです。でも、私も着物を着るチャンスがありました。日本の着物は本当にきれいです。着方はとても複雑ですが、カラオケ店のマスターのおかげで、きれいな着物を着ることができました。本当にありがとうございました。

日本での研修の1か月間、私は四つの家庭でお世話になりました。ホームステイのお父さんとお母さんはとても親切でした。本当に感謝しています。最初、私は言葉や習慣の違いからあまり日本の生活に慣れませんでした。今は畳でも寝られるし、薄い味の和食も口にあってきて、家族のみんなと日常会話ができるようになり、だんだん慣れてきました。

普通の旅行と違う言語研修なので、地元の学校の先生や生徒などと直接接する機会を得ることができ、本当の意味での異文化というものを感じ取ることができました。言語研修以外でも多くのことを学ぶ機会に恵まれました。ホームステイの体験からは、人の優しさや思いやりの心を学びました。他人である私を家族の一員として迎えていただき、家族の親戚の会合、町の交流などすべての行事に参加させていただきました。こうしたことは、今回の研修で得ることができた大きな財産だと思いました。この1か月間で勉強し身につけたものは、母国で学んだ1年間よりもずっと多いと思います。最後になりましたが、皆さん健康にはくれぐれもお気を付けください。元気でいてください。どうもありがとうございました。

◆ 王済（オウザイ） 呼和浩特民族学院 外語系 日本語学科4年生

1か月の時間はあっという間に過ぎてしまいました。最初は、不安な気持ちを持って日本の土地を踏みましました。今となったら日本を離れたくない気持ちです。

学校に行った時、生徒の皆さんと一緒に体育やいろいろな活動に参加しました。生徒の日常の勉強、学校の制度、教育施設設備、生徒に対する指導方法を学びました。また、私たちは今の内モンゴルを紹介し、歌を歌って、生徒たちが内モンゴルを良く理解するよう努力しました。授業の過程で、生徒は自由に発言することができます。これは生徒の話し言葉や表現能力を鍛え、しかも生徒たちが自由に考えることを尊重して



竹田の観音寺では座禅や写経などを体験

います。これは私たちが勉強するに値するものです。今回の研修期間中に、和田山中学校創立50周年記念式典がありました。私たちは幸運にも参列しました。和田山中学校の歴史、今の発展の状況と学校のブラスバンドの演奏などを目にすることができました。

京都の金閣寺と三十三間堂、竹田の観音寺を見学して、日本の仏教文化を学びました。座禅とか、写経とか、私たちの体と心を鍛えました。日本の仏教

文化は中国から伝わりました。でも、数百年間、日本は独自の仏教文化を育て上げました。温室育ちの私たちは座禅の痛みは全然分かりません。だから、今回の体験は私たちにとても貴重な体験となりました。

ホームステイの時、私は本当の日本人になった感じがしていました。ホームステイの体験は楽しかったです。皆さんが、自分の家族の一員のように親切にしてくださいました。伝統的な日本料理とか、木造の和室とか、温泉とかを体験できました。

今回の日本での研修の1か月間、特に印象が深かったのは、まず、いつ、どこでも、誰に対しても、皆さん礼儀正しいです。毎日、朝から夜までずっと皆さんの笑顔を見て、毎日が最高の一日でした。

次は、真面目精神。世界の中で、一番真面目な人は日本人だろうと思います。小学生、中学生、高校生、

会社員、先生たち。皆さんの1日、1週間、1か月間の計画が書いてある掲示板は、どこでも見ることができました。

最後に団結精神。学校や会社は小さい団体です。社会は大きい団体です。とにかく、日本の生活はまるで団体の中で生活しているようです。「団結は力なり」、日本は子供を小さい時から、お互いに協力して助け合うことを学ばせます。これは経済の発展や科学技術の発展よりも大切だと思いました。

私は日本が大好きです。日本語が大好きです。中日友好のためにずっとがんばっている「わだやま国際文化交流協会」や和田山町の皆さんが大好きです。皆さんの優しい笑顔は一生忘れることができません。自分の力で、日本の文化をたくさん紹介して、中日友好に貢献したいと思います。皆さん、本当にありがとうございました。

◆ 石帥（シシュワイ） 呼和浩特民族学院 外語系 日本語学科4年生

日本での研修の面接が合格と知った時から、この度の研修生活をずっと期待していました。

和田山中学校の訪問をはじめとして、1か月間に10の学校に行きました。私は大学に入学した後、日本語学科のため、いつも日本のドラマを見ています。実際に和田山で見学したものは、ドラマの中の生徒たちの生活、授業や部活動などとほとんど同じでした。しかし不思議なことがありました。例えば、室内に入る時、室内靴やスリッパに替えなければならない。女の子は寒い天気の日でもスカートをはいている。バスケットボール部の生徒が練習していた時の真面目な態度。小学校のマラソン大会で、途中でやめた人は一人もいなかったことなど。各学校の見学で、すばらしい生徒が育っていることがよくわかりました。

神戸聖隷福祉事業団が運営されている恵生園、平生園、真生園、わらしべ、さくらの苑、和生園を見学しました。現代社会の急速な発展とともに、高齢化対応はますます厳しくなります。年をとって、思うように行動できない人や認知能力が低下した人が多くなって、ふさわしい世話をしなければなりません。神戸聖隷福祉事業団は社会問題を解決しています。素晴らしい事業だと思います。

そして、(株)佳長の煎餅製造工場に行った時、社員の方は厚い作業服を着て、煎餅を作っていました。床や機器はきれいな状態に保たれていました。日本人のルール厳守の精神を見ました。



報告会では上達した日本語で研修成果を発表

ホームステイは、私にとって日本人の生活を身近なものにし、日本人の衣、食、住を深く理解させることとなりました。

山田先生は週に1回の特別講義をしてくださいました。山田先生の日本語は標準語で、最初はゆっくり話されました。和田山町は関西にあるので、関西方言を使ってなくても、少し方言の言葉があります。初めて日本に来た私にとって、方言の言葉が分かりにくかったです。この度の研修で、多くの先生から方言の言葉を聞いて、分からないことが何回かありました。

研修生活は1か月の期間でしたが、学んだことが頭にいっぱい残っています。和田山で日本語の研修をし始めてから、日本文化や日本人のマナーなどをたくさん勉強しました。わだやま国際文化交流協会に、この度の研修のチャンスをいただいて感謝しております。先生たちの笑顔、教えていただいたこと、研修の思い出をきちんと覚えております。わたしは大学を卒業したら、ぜひ日本へ留学したいと思います。皆様、大変お世話になりました。